

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6、別記7の第6の1の(1)関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和5年度報告)

香川県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

本県の被害防止計画は県内17市町のうち、16市町で作成されている。
対象鳥獣としては、獣類ではイノシシ(16市町)、ニホンザル(11市町)、アライグマ(11市町)、ニホンジカ(11市町)、鳥類ではカラス(12市町)、カワウ(9市町)等となっている。

2 事業効果の発現状況

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。

総合支援事業(推進事業、整備事業)及び緊急捕獲活動支援事業の活用により、被害低減が図られている。
総合支援事業(推進事業)では、狩猟免許取得者の育成、捕獲機材の整備、被害防止対策研修会の開催等を行っている。
また、緊急捕獲活動支援事業では、イノシシ、ニホンザル、ニホンジカの捕獲に積極的に取り組んでおり、捕獲圧を高めている。
鳥獣被害防止都道府県活動支援事業では、効果的なカワウ対策を行うための詳細な生息実態の知見が得られた。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害防止計画の目標の達成状況を記載する。

令和5年度で計画が終了した2町のうち、すべて目標を達成できた。
令和4年度で計画が終了した12市町のうち、5市町が再評価を行った結果、3市町が目標を達成した。
県では「集落に寄せ付けない環境づくり」、「侵入防止対策」、「捕獲」を3つの柱として、対策の取組み推進を図っており、近年、被害金額は横ばいから微増傾向で推移していたが、令和5年度は大幅に減少した。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						第三者の意見	都道府県の評価						
										被害金額			被害面積					事業実施主体の評価					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率								
多度津町鳥獣被害防止対策協議会(多度津町)	多度津町	4	カワウ	有害捕獲	カワウ駆除2か所	多度津町鳥獣被害防止対策協議会	R5.3	100%	イノシシの被害が増加しているため、猟友会に鷹の支給を行うことで、イノシシの捕獲数の増加が見込まれる。 カワウの駆除を行うことで、漁業被害の抑制を図ることができている。	730	2,068	-572.3%	91.00	37.00	242.1%	イノシシについては、捕獲頭数が増加し、被害量は、減少傾向にあるが、計画の目標に達していない。 そのため農業者にあらかじめ、侵入防止柵の補助事業を周知し、自衛の強化を図る。 アライグマ・ハクビシンについては捕獲頭数が増加傾向にあり、被害量も減少し、目標に達している。引き続き、被害があった農業者には、稲わらの貸出を行い、自衛の強化を図る。 カワウについては、毎年竜巻島及び小島において銃による駆除を行い生息数を減らしている。 カラスについては、鳥獣用防護ネットの設置補助の効果もあり減少している。 カモについては、目標は達成しているが、被害が多い年と少ない年がある。どういった対策が効果的か模索する必要がある。	有害捕獲により、被害軽減に取り組み、被害面積が減少したものの、被害金額は軽減目標の達成に至っていない。 より一層の被害低減に向けて効果的な捕獲を実施するとともに、生息環境管理、侵入防止対策を含めた総合的な被害防止対策に取り組んで欲しい。						
		5			カワウ駆除1か所	多度津町鳥獣被害防止対策協議会	R5.3	100%															
		5	イノシシ	有害捕獲	くりわな304基	多度津町鳥獣被害防止対策協議会	R6.3	100%															
多度津町	多度津町	3	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	150	-	-	-	中山間部でイノシシによるぶどう及びびわ等の農作物への被害が多発しているため、緊急捕獲活動支援事業を活用し、丸亀地区猟友会及び普通寺地区猟友会にイノシシの捕獲を依頼している。 イノシシの捕獲数は、年間増加しており、被害量は、減少傾向にある。	730	2,068	-572.3%	91.00	37.00	242.1%	イノシシについては、捕獲頭数が増加し、被害量は、減少傾向にあるが、計画の目標に達していない。 そのため農業者にあらかじめ、侵入防止柵の補助事業を周知し、自衛の強化を図る。 アライグマ・ハクビシンについては捕獲頭数が増加傾向にあり、被害量も減少し、目標に達している。引き続き、被害があった農業者には、稲わらの貸出を行い、自衛の強化を図る。 カワウについては、毎年竜巻島及び小島において銃による駆除を行い生息数を減らしている。 カラスについては、鳥獣用防護ネットの設置補助の効果もあり減少している。 カモについては、目標は達成しているが、被害が多い年と少ない年がある。どういった対策が効果的か模索する必要がある。	有害捕獲により、被害軽減に取り組み、被害面積が減少したものの、被害金額は軽減目標の達成に至っていない。 より一層の被害低減に向けて効果的な捕獲を実施するとともに、生息環境管理、侵入防止対策を含めた総合的な被害防止対策に取り組んで欲しい。						
		4			183	-	-	-															
		5			165	-	-	-															
まんのう町	まんのう町	3	ニホンジカ	緊急捕獲活動支援事業	1	-	-	-	ニホンジカについては、山間部での目撃情報が寄せられており、捕獲量が増えている。 イノシシについては、年々捕獲実績が減っているが、被害額・被害面積については令和4年度よりは減っており、一定の成果が上がっている。 サルについては、捕獲量が増加しており、今後も捕獲活動に積極的に取り組んでいくとともに、研修会の実施や盗い払い等による被害の防止強化を図る。	400	2,505	-315.2%	5	3	403.6%	被害防止計画に基づき捕獲頭数については、目標頭数を下回っており、今後は目標達成に向けた活動を実施していく必要があるが、進入防止柵の普及などにより被害面積や被害額は事業年度によって増減しているため、総合的な事業実施により農業被害の軽減を図る。研修会の実施や参加を通じて捕獲数達成に向けていきたい。	イノシシは捕獲に頼った対策ではなく、耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置と管理を行うことによる総合的な被害防止対策を推進する必要がある。確実にイノシシから守れる取組みを展開してほしい。 サルは捕獲対策で被害軽減につながりにくい動物である。したがって単に捕獲の強化で解決しようとするのではなく、地域住民参加による集落ぐるみの盗い払いを柱とした対策の強化や侵入防止柵の適切な設置、放置果樹の除去などを組み合わせた総合的な対策が必要である。地域住民の主体的な取組みを推進することでサルの被害防止につなげてほしい。 (香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖歌)						
		4			4	-	-	-															
		5			0	-	-	-															
		3	664		-	-	-																
		4	550		-	-	-																
		5	250		-	-	-																
		3	6		-	-	-																
		4	2		-	-	-																
5	3	-	-	-																			
香川県	香川県全域	5	カワウ	鳥獣被害防止都道府県活動支援事業	-	-	-	-	・専門業者に委託し、県内の主要生息地においてねぐら入り・ねぐら立ち調査を実施するとともに、県内全域の季節別の生息状況や繁殖状況を調査した。 ・調査の結果、県内の主要生息地に季節変化を把握するとともに、これまで詳細がわかっていなかった内陸部のねぐら・コロニーの実態を把握することができた。 ・被害状況の把握のため、40個体の胃内容物を調査したところ、確認ができたサンプルからは汽水域を好む魚(コソノロ、ボラ)や、コイやフナ等の内水面に生息する魚が比較的多く出現した。 ・全体的な対策の方向性や各生息地の立地条件やねぐらコロニーの形成状況を踏まえた対策方法の検討を行った。	-	-	-	-	-	-	・県内には数多くのねぐら・コロニーが分布しているため、全ての生息地で厳密な調査を行うことは困難であるが、できる限り正確な生息状況を把握し、対策の効果を検証するためには、少なくとも現状の調査体制を維持する必要がある。 ・被害状況については、時期や場所により異なると思われるため、全容の把握は困難であるが、新たな技術も活用しながら多様なデータの蓄積に引き続き努める必要がある。 ・対策の効果を高めるために、対策の方向性を整理し、関係市町が足並みを揃えて対策を実施できるよう連携の強化を図る必要がある。	効果的なカワウ対策に資するため、十分な調査体制を整備する必要がある。 得られた知見を踏まえ、計画的な対策を促進していく必要がある。						

(再評価)

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
高松市鳥獣対策協議会(高松市)	高松市	2	イノシシ	箱わな導入	10基	高松市鳥獣対策協議会	R3.3	100%	イノシシについては、箱わなの導入や侵入防止柵の設置を行うとともに、狩猟免許費用の助成による新規捕獲従事者の確保を促進した結果、被害金額、被害面積ともに大幅に減少し、200%を超える達成率となった。 一方、カワウについては、刺網の導入により積極的な捕獲に努めたところであるが、被害金額が増加した。	2,746	5,182	17.3%	815	217	271.3%	令和5年度はイノシシの有害捕獲頭数が1,277頭となり、近年は2,000頭前後で推移していたので大幅に減少した。カワウは生息羽数が増加しており、昨年駆除を実施した牟礼町では羽数が減少しているが、住宅に近い池周辺でコロニーが確認されている箇所もあり、対応策を地元と協議しながら検討していく。	イノシシは捕獲対策だけでなく、耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置と管理を行う1つ1つ捕獲を推進する総合的な被害防止対策に努め、確実にイノシシから守れる取組みを展開してはしい。サルは捕獲対策で被害軽減につながりにくい動物である。したがって単に捕獲の強化で解決しようとするのではなく、地域住民参加による集落ぐるみの道いれを柱とした対策の強化や侵入防止柵の適切な設置、放棄果樹の除去などを組み合わせた総合的な対策が必要である。地域住民の主体的な取組みを推進することでサルの被害防止につなげてほしい。 (香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	有害捕獲により、被害軽減に取り組み、被害面積が減少したものの、被害金額は軽減目標の達成に至っていない。より一層の被害軽減に向けて効果的な捕獲を実施するとともに、生息環境管理、侵入防止対策を含めた総合的な被害防止対策に取り組んで欲しい。
			イノシシ	狩猟免許中心専攻習熟者受講料助成	18名													
		3	イノシシ	箱わな導入	22基	高松市鳥獣対策協議会	R4.3	100%										
			イノシシ	狩猟免許中心専攻習熟者受講料助成	23名													
		3(補正)	イノシシ	侵入防止柵	1,000m	高松市鳥獣対策協議会	R5.3	100%										
			イノシシ	侵入防止柵	900m													
		4	イノシシ	箱わな導入	10基	高松市鳥獣対策協議会	R5.3	100%										
				カワウ	有害捕獲													
			カワウ	刺し網導入	2カ所													
			イノシシ	狩猟免許中心専攻習熟者受講料助成	15名													
5	イノシシ	箱わな導入	10基	高松市鳥獣対策協議会	R6.3	100%												
		カワウ	刺し網導入				2カ所											
		イノシシ	狩猟免許中心専攻習熟者受講料助成				15名											
高松市	高松市全域	2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	1,632頭	-	-	-	令和5年度はイノシシ等有害鳥獣目撃及び相殺件数は222件(対前年比4.6%減)で過去最多となった令和4年度に比べ半減しているが、引き続きイノシシ等が大量の田畑に出没していることが懸念。このため状況の中、イノシシの捕獲については、猟友会を中心に年間を通して行われ、令和5年度は1,277頭(交付対象頭数1,134頭)の捕獲実績となり、被害の軽減に寄与している。また、捕獲従事者の高齢化が進む中、狩猟免許取得費用を助成することで、新規捕獲従事者の養成を高効率に継続してイノシシ等の捕獲ができるよう推進している。	2,746	5,182	17.3%	815	217	271.3%	令和5年度はイノシシの有害捕獲頭数が1,277頭となり、鳥獣被害防止計画の捕獲計画数については、目標値の2,000頭を下回っている。また、被害金額や面積については依然と防犯柵を大幅に上回っているものもあるため、継続して捕獲の取組みを強化し防犯対策等を積極的に実施して、被害金額や面積などの減少を図る。サルの捕獲数も減少し、捕獲頭数を確保していない。わなの設置場所の再検討など、捕獲従事者や地元農業者と連携し、計画捕獲数の達成を図る。カワウでも捕獲計画数に達しておらず、被害金額も依然目標値を上回っている。捕獲従事者を養成し、捕獲促進を図る。カワウは生息羽数が増加しており、昨年駆除を実施した牟礼町では羽数が減少しているが、住宅に近い池周辺でコロニーが確認されている箇所もあり、対応策を地元と協議しながら検討していく。	イノシシは捕獲対策だけでなく、耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置と管理を行う1つ1つ捕獲を推進する総合的な被害防止対策に努め、確実にイノシシから守れる取組みを展開してはしい。サルは捕獲対策で被害軽減につながりにくい動物である。したがって単に捕獲の強化で解決しようとするのではなく、地域住民参加による集落ぐるみの道いれを柱とした対策の強化や侵入防止柵の適切な設置、放棄果樹の除去などを組み合わせた総合的な対策が必要である。地域住民の主体的な取組みを推進することでサルの被害防止につなげてほしい。 (香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	
					1,722頭													
					1,726頭													
					1,134頭													
					0頭													
		3	サル		6頭													
					4頭													
					0頭													
		2	シカ		13頭													
					7頭													
					14頭													
					11頭													
					11頭													
坂出市	坂出市全域	R2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	305頭	-	-	-	令和5年度の被害状況については、イノシシの目撃情報や被害が減少しており、山間部や農地周辺のみならず民家周辺においても出没事故が発生しているものの、イノシシの生息個体数は成熟の影響を受けて令和4年度と比べ減少しているものと思われる。令和5年度の捕獲活動については、豚熱の感染拡大の影響もあり捕獲数は減少となったものの、被害は引き続き発生している状況であり、目標未達となった。カワウについても捕獲活動を実施しており、市山間部で被害が発生し続けている状態であったが、昨年は確認された被害がなく目標達成となった。	502	1,201	-150.1%	501	586	25.5%	令和5年度にイノシシの捕獲数が減少したものの、民家周辺においても出没しているという中で、個体数の減少には至っていない状況があると考えられる。また、耕作放棄地と管理を行う1つ1つ捕獲を推進する総合的な被害防止対策に努め、確実にイノシシから守れる取組みを展開してはしい。 (香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	有害捕獲により、被害軽減に取り組み、被害金額、被害面積ともに現状を上回っている。効果的な捕獲を実施するとともに、生息環境管理、侵入防止対策を含めた総合的な被害防止対策に取り組んで欲しい。	
		R3	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	347頭	-	-	-										
		R4	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	325頭	-	-	-										
		R5	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	197頭	-	-	-										
小豆島町鳥獣被害防止対策協議会(小豆島町)	小豆島町	3	ニホンザル	サル捕獲用わなの購入	10基	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和4年3月	100%	令和3年度の捕獲頭数は25頭で、捕獲わな購入後の令和4年度は33頭になった。狩猟免許取得に必要な経費を補助することにより狩猟免許取得者の増加につながる。	141	120	143.9%	550	90	292.1%	サルは捕獲対策で被害軽減につながりにくい動物である。したがって単に捕獲の強化で解決しようとするのではなく、地域住民参加による集落ぐるみの道いれを柱とした対策の強化や侵入防止柵の適切な設置、放棄果樹の除去などを組み合わせた総合的な対策が必要である。地域住民の主体的な取組みを推進することでサルの被害防止につなげてほしい。 (香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	有害捕獲や捕獲従事者の確保・育成等の取組みにより、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標を達成した。より一層の被害軽減に向けて効果的な捕獲を実施するとともに、生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。	
				狩猟免許取得者講習会受講料助成	2名		令和2年9月	100%										
		4	カワウ	イノシシ	2名	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和4年9月	100%										
				タヌキ	2名		令和5年7月	100%										
		2	ニホンザル	サル捕獲講習会受講料助成	1式	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和2年11月	100%										
				初心者狩猟講習会受講料助成	1式		令和3年12月	100%										
				初心者狩猟講習会受講料助成	1式		令和4年11月	100%										
3	カワウ	イノシシ	1式	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和4年11月	100%												
		タヌキ	1式		令和5年11月	100%												

小豆島町	小豆島町 全域	2	イノシシ(成獣)	有害捕獲	974	-	-	-	平成26年度を境に、小豆島町内で、イノシシ、シカが増し、鳥獣被害件数が増加した。それに伴い、鳥獣捕獲等助成事業(県単)と連携しつつ、緊急捕獲活動支援事業を活用し、有害鳥獣の捕獲と被害防止に力を入れてきた。令和2年度から令和4年度はピーク時に比べ捕獲頭数は減少傾向にあり、イノシシは約600頭、シカは500頭、ニホンザルは150頭の減少となったが、イノシシ、ニホンザルに関しては、適正な数に近づいているが、サルに関しては、捕獲の難しさが原因で捕獲頭数は減少した。	141	120	143.9%	550	90	292.1%	<p>猟友会、関係団体等と連携し、被害防止対策を実施している。また、農地を守るための侵入防止柵をつける農家が増えたため、イノシシやニホンザルの被害件数が減少した。しかし、ニホンザルは捕獲や被害防止が難しく、小豆島全域に群れが拡散されたため、被害数が増加した。今後は、ニホンザルの捕獲に力を入れ、被害軽減につなげていきたい。</p>	<p>サルは捕獲対策で被害軽減につながりにくい動物である。したがって単に捕獲の強化で解決しようとするのではなく、地域住民参加による集落ぐるみの適切な設置と管理を行いつつ捕獲を推進する総合的な被害防止対策を推進することである。地域住民の主体的な取組みを推進することでサルの被害防止につなげてほしい。</p> <p>(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)</p>	<p>有害捕獲や捕獲従事者の確保・育成等の取組みにより、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標を達成した。より一層の被害軽減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。</p>																
			ニホンザル(成獣)		45																													
			ニホンジカ(成獣)		656																													
		3	イノシシ(成獣)		924																													
			ニホンザル(成獣)		25																													
			ニホンジカ(成獣)		440																													
		4	イノシシ(成獣)		988																													
			ニホンザル(成獣)		33																													
			ニホンジカ(成獣)		383																													
		5	イノシシ(成獣)		976頭																													
			ニホンザル(成獣)		31頭																													
			ニホンジカ(成獣)		397頭																													
		三木町	三木町 全域		2														イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	356頭	-	-	-	香川県狩猟クラブや三木町鳥獣対策実施隊を中心に本町の箱わなやくくりわなを貸し、捕獲活動を実施した。また、令和2年度よりサルの捕獲の奨励金を増額した。さらに捕獲活動の中で使用するおき餌について住民に対して提供を呼びかけたところみやサツマイモ等の提供があり、捕獲活動に活用することができた。これらの取組の結果、3箇年にわたり特にイノシシ・サルの捕獲頭数について成果をあげることができた。今後も本町対策協議会、狩猟クラブ等と連携し計画的に事業を実施する。	485	1148	-757.30%	495	571	35.60%	<p>農作物被害については、特に中山間地においてイノシシ、サル、アライグマ等による農作物被害が多発しており、被害の範囲は平野部にも及ぶようになっている。本町独自の防止対策事業において、各農家ごとにワイヤーメッシュ柵や電気柵等の侵入防止柵を設置することで被害防止を図った。しかしながら、当初の目標から被害面積において目標が達成出来なかった。今後についても捕獲活動とともに総合的な対策として、防止柵に対する補助制度の拡充や農作物被害対策について、関係機関と連携を図りながら普及啓発活動を行っていく必要がある。</p>	<p>イノシシは捕獲対策だけでなく、耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置と管理を行いつつ捕獲を推進する総合的な被害防止対策を推進することである。地域住民の主体的な取組みを推進することでサルの被害防止につなげてほしい。</p> <p>(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)</p>	<p>有害捕獲により、被害軽減に取り組んだものの、被害金額、被害面積ともに現状を上回っている。効果的な捕獲を実施するとともに、生息環境管理、侵入防止対策を含めた総合的な被害防止対策に取り組んで欲しい。</p>
																			サル		27頭													
																			シカ		10頭													
3	イノシシ			522頭																														
	サル			38頭																														
	シカ			9頭																														
4	イノシシ			320頭																														
	サル			38頭																														
	シカ			4頭																														
5	イノシシ			270頭																														
	サル			33頭																														
	シカ			15頭																														
綾川町	綾川町 全域			2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	368頭	-	-	-	中山間地帯においてイノシシによる水稲や野菜類の被害及びため池等の埋や土手、田畑の畦畔等の掘り起こしの被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し、鳥獣被害対策実施隊が被害多発地帯に大型箱わなを多めに設置し有害鳥獣捕獲を行うとともに殺処分時の安全を考慮し電気柵めし器を使用することとした。これらの取組みにより、令和2年度までは例年捕獲頭数が400等前後であったが、令和3年度は637頭と200頭あまり増加した。また、令和4年度、令和5年度は生息数の減少により捕獲頭数も減少したと思われる。	997	1,203	73.8%	550	640	76.8%	<p>イノシシについては、毎年大型箱わなを増設し被害多発地域に設置をした。捕獲実施隊員も世代交代を少しずつ行い人数は変わらないが苦慮を旨し捕獲範囲の拡大をしている。目標達成はできなかったものの、被害は減少傾向である。カラス・セビドリは大規模捕獲器を活用し捕獲しているが、成果はあまりでない。ハクビシンは捕獲頭数が増加している。被害も果樹等に多いが構造的な被害である。</p>	<p>イノシシ対策は耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置と管理を行いつつ捕獲を推進する総合的な被害防止対策を推進することである。地域住民の主体的な取組みを推進することでサルの被害防止につなげてほしい。</p> <p>(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)</p>		<p>有害捕獲や捕獲従事者の確保・育成等の取組みにより、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標を達成した。より一層の被害軽減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。</p>													
				3	イノシシ		504頭																											
				4	イノシシ		340頭																											
		5	イノシシ	250頭																														

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。